

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成25年5月23日 (2013.5.23)

【公開番号】特開2011-104336(P2011-104336A)
 【公開日】平成23年6月2日 (2011.6.2)
 【年通号数】公開・登録公報2011-022
 【出願番号】特願2010-110034(P2010-110034)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 31/00 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 31/00

A 6 1 B 1/00 3 2 0 A

【手続補正書】
 【提出日】平成25年4月15日 (2013.4.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

挿入可能部材 (3) は、その後端部に、挿入可能部材 (3) の先端部に隣接して設けられた出口 (33) を有する第 1 の内部通路 (32) に第 1 の管 (2) の自由端を結合するための第 1 の口 (31) を備える。挿入可能部材 (3) は、挿入可能部材 (3) の先端部に隣接して設けられた出口 (36) を有する第 2 の内部通路 (35) に排出物排出管 (5) を結合するための第 2 の口 (34) をさらに備える。さらに、挿入可能部材 (3) は、膨張可能な環状要素 (30) の内部に設けられた出口 (39) を有する第 3 の内部通路 (38) に膨張手段 (6) を接続するための第 3 の口 (37) を備える。膨張可能な環状要素 (30) は、その膨張によって体腔への進入を阻止するために、挿入可能部材 (3) の周囲に設けられている。この挿入可能部材 (3) は、損傷または不快感を引き起こさずに直腸腔への部材 (3) の挿入を容易にするために、丸みを帯びた先端部を有する。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 9】

図 4 に示されている一実施形態においては、第 1 の管 (2) は、第 2 の管 (4) を接続するバイパス (21) と送気装置 (1) に接続された端部との間の区間に、気体を口または鼻から患者の体腔に導入するための管 (8) が接続される第 2 のバイパス (23) を有する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】請求項 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【請求項 4】

前記第 1 の管 (2) は、前記第 2 の管 (4) を接続する前記バイパス (21) と前記送

気装置（１）に接続された端部との間の区間に、口または鼻から患者の体腔に気体を導入するための管（８）が接続される第２のバイパス（２３）を有することを特徴とする、先行請求項の何れか１項に記載の装置。

【手続補正４】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項５】

前記挿入可能部材（３）の前記第２の口（３４）に接続された前記排出物排出管（５）は、その後端部が排出物収集容器または貯留部（５１）に接続されることを特徴とする、請求項３に記載の装置。

【手続補正５】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項１１】

前記第１の管（２）の前記バリア（２２）の前方と前記排出管（５）とに配設された締め付け手段、クランプ（７）、または封鎖手段を備えることを特徴とする、先行請求項の何れか１項に記載の装置。